

地域住民との協力体制の構築と推進

～認知症になっても安心長寿のまちおうしゅうをめざして～

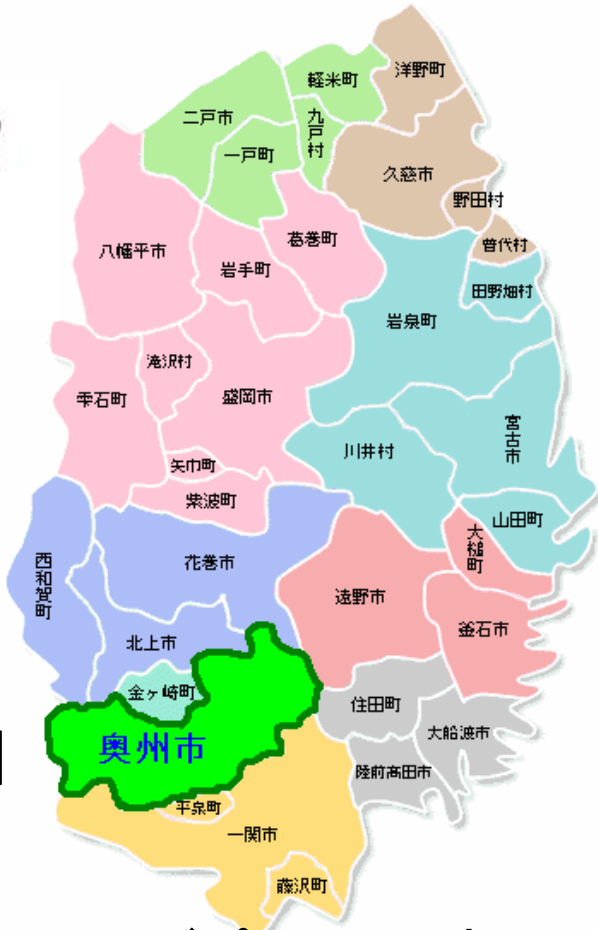


岩手県奥州市

認知症地域支援推進員

千田 智美

岩手県 奥州市



平成18年2月 2市2町1村が市町村合併
総面積は、993.30平方キロメートルと広大。
(東西に約57km、南北に約37km) ※東京23区やシンガポールより広い！

- 地域の中央を北上川が流れており、地域全域が緑のあふれる豊かな自然に恵まれている。
- 総面積のうち、農地の割合が高く、稲作を中心とした複合型農業により、県内屈指の農業地帯となっている。

(特産品)南部鉄器 前沢牛 江刺りんご 胆沢ピーマン はとむぎ茶等
※国際リニアコライダー(ILC)国内候補地

(自治体基本情報)

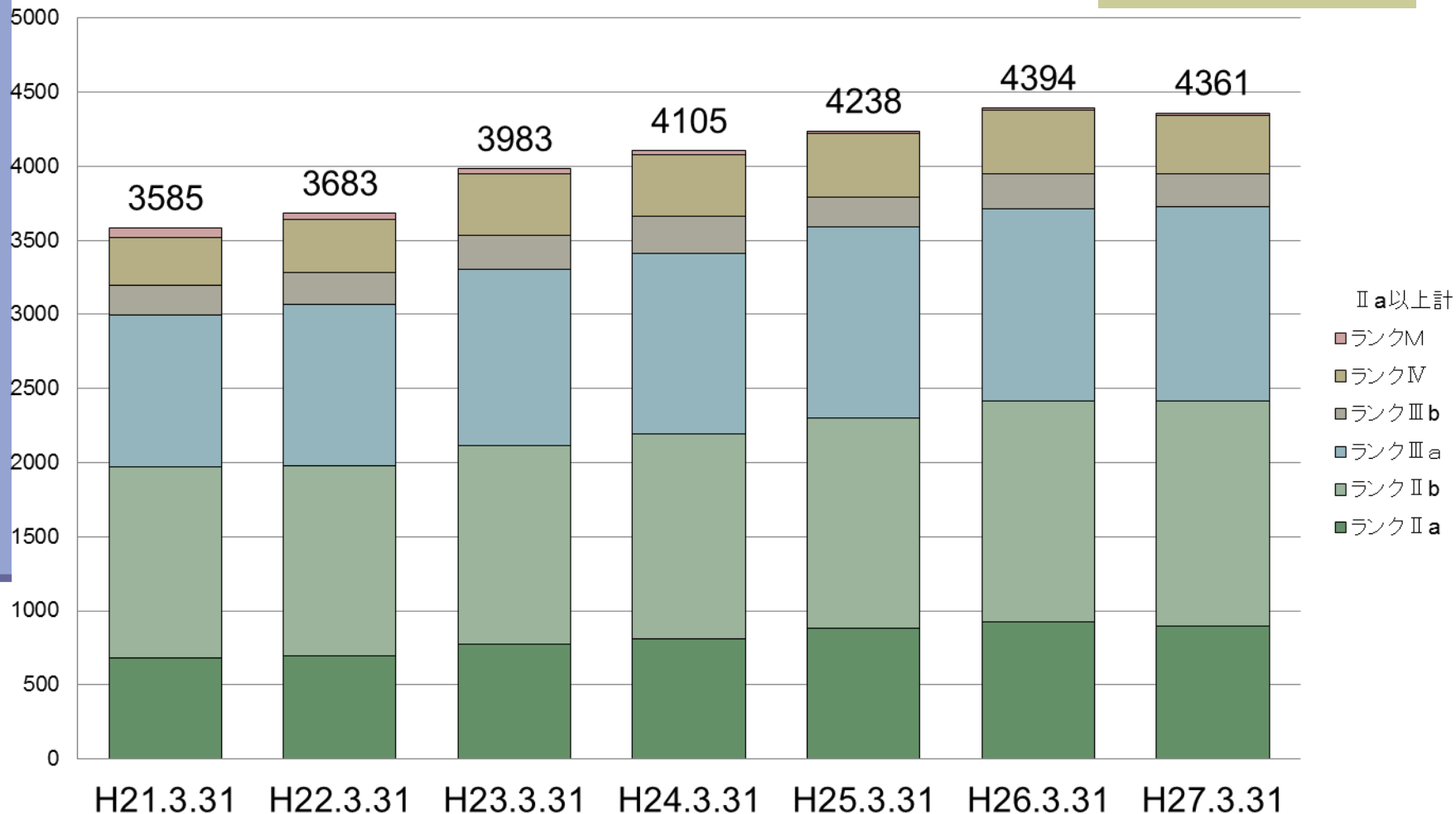
岩手県奥州市



	平成28年3月末現在
総人口	120,664人
高齢者人口	38,600人
高齢化率	32.0%
世帯数	44,638世帯
介護認定者数	7,110人
要介護認定者率	18.4%
第6期介護保険料(年額)	60,000円
地域包括支援センター数(直営)	1か所(本庁) (駐在4・サテライト1)
生活圈域数	5圏域
認知症地域支援推進員数	3人(直営包括:専任1、兼務2)

奥州市の要介護(要支援)認定者の 認知症分類別推移

人



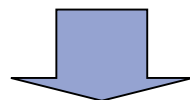
第6期介護保険事業計画における認知症施策の全体像

- 基本理念:「安心長寿のまち おうしゅう」の実現
- 重点取組事項:認知症施策の推進

	事業名		事業名
1 認知症の人を支援する関係者の連携を図る事業	① 奥州市認知症になっても安心まちづくり連絡会	3 認知症の容体に 応じた適切な対応 のための体制整備 事業	① 物忘れ相談プログラムの活用 (早期発見・早期対応のため)による個別相談
			② 脳トレ・筋トレ教室
			③ 認知症支援者相談会
			④ 認知症初期集中支援推進事業
			⑤ はいかいSOSネットワーク事業
			⑥ 徘徊声かけ模擬訓練事業
2 認知症への理理解を深めるための普及・啓発推進事業	① キャラバン・メイト自主活動組織育成支援	4 認知症の人や家族を支援する事業	① 認知症支援ぬくもり隊養成講座
	② 認知症サポーター養成講座		② 認知症支援ぬくもり隊自主活動支援
	③ 認知症研修会		③ 認知症カフェ事業 思い出カフェ 「昔なつかし語らいの会」の開催
	④ 一般市民向けの情報揭示		④ 認知症介護者家族交流会 「ぬくっこ」の開催
			⑤ 若年性認知症の本人・家族が相談できる窓口の周知拡大

気づきとあせり、そして考えたこと

- 認知症に関する切実な相談が多くなっている
- 介護保険未申請の徘徊高齢者が保護されている
- 認知症サポーター養成講座やフォーラム、家族教室等
- 認知症関連事業に対する住民の反応が大きい
- 若年性認知症者のほとんどが匿名の相談



①「認知症で困っている市民が多い」という確信

相談者にしっかりと向き合い、共に学び共に考えて行こうというつながりの起点に。

②市民の認知症への関心の高まりを実感

関係機関で課題を共有し、認知症対策に取り組もうというつながりの起点に。

住み慣れたまちで共に生きるために ～認知症になっても安心長寿のまちおうしゅう～

<目 的>

認知症になっても本人の意思が尊重され、みんなの和で支え合いながら、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりをめざす。

みんなの和：専門職と住民がつながり協働して地域づくりを進めていくことを目的でわかりやすく示した



認知症対策事業経年一覽

事業名	H24	H25	H26	H27	H28
認知症になっても安心まちづくり連絡会	○	○	○	○	○
徘徊対応部会	徘徊対応部会	認知症ケアパス 検討部会	徘徊対応部会	徘徊対応部会	受診連携ツール 作成部会
金銭管理・権利擁護部会	金銭管理・権利 擁護部会	金銭管理・権利 擁護部会	—	—	認知症ケアパス ダイジェスト版作 成部会
普及啓発・相談対応部会	普及啓発・相談 対応部会	おうしゅう介護の 便利帳作成部会	医療と介護の連 携部会	認知症ケアパス 作成部会	
みんなで支える認知症事例検討会	○	○	○	支援者相談会	支援者相談会
認知症初期集中支援チーム事業			(試行)	○	○
市民ボランティア「認知症支援ぬくもり隊」養成講座	○	○	自主活動組織育 成	自主活動支援	養成講座と 自主活動支援
家族交流会「ぬくっこ」	○	○	○	○	○
たんこう認知症の人を支える家族の会後方支援	○	○	○	○	○
徘徊SOSネットワーク事業	—	○	○	○	○(拡充)
徘徊模擬訓練事業	—	○	○	○	○
認知症カフェ「昔なつかし語らいの会」	—	○	○	○	○
キャラバン・メイトフォローアップ研修会	○	○	○	○	○
キャラバンメイト連絡会の設立及び自主活動組織 育成支援	○	○	○	○	○
認知症サポーター養成講座	○	○	○	○	○
認知症にやさしい地域づくりフォーラムの開催	○	○	○	○	○
認知症にやさしいケアのあり方研修会の開催	○	○	○	—	—
認知症の人と家族の実態調査	○	—	—	—	—
認知症介護予防推進(認知症脳トレ・筋トレ教室)の 開催	—	○	○	○	○

事業計画の全体構成で考慮した点

- 最優先事業として、住民との協働も含めた「連携」に焦点をあてた。
- 部分的連携にとどまらず、「当事者の安心」を町ぐるみで支える連携にむけた連絡会をメインに据えた。
- 課題の中でも優先度の高いテーマを選んで、具体的な解決をはかっていくための部会を設置した。
- 連絡会・部会での検討と個別支援の検討を連動させていく構成にした。
- 様々な事業が、バラバラにならずに「本人と家族の支援」にむけて、一貫した取組みになるようにした。

※専門的な支援と住民活動とが繋がらないと何も解決しない！

具体的な企画・運営・見直し・推進のプロセス

■ 企画段階

地域包括支援センター(直営) 内に認知症対策グループをおき企画を担当

■ 運営

認知症対策グループを中心に役割分担し事業実施

■ 評価と見直し

事業計画や評価及び見直しは、地域包括支援センター運営協議会(年3回)及び認知症になっても安心まちづくり連絡会(年2回)で実施

認知症地域支援推進員の役割

～専任～

- 認知症サポーター養成講座の企画・運営・開催
- キャラバンメイト組織育成支援
- 認知症介護者家族交流会及び公開講座の企画・運営・開催
- 認知症カフェの企画・運営・開催

～兼務～

- 「認知症になっても安心まちづくり連絡会」や各種部会
- 認知症初期集中支援チーム事業
- 徘徊SOSネットワーク事業 等

「認知症になっても安心まちづくり連絡会」の開催へ向けた動き

- まずは相談から・・・
 - 職場内で相談
 - 日常業務の中で認知症に関心が高いと思われる事業所や関係機関に相談
(医師会及び認知症サポート医・銀行・理容師・民生委員・町内会長・ケアマネジャー・グループホーム等)
 - 庁内関係課に相談(教育委員会・保健センター・市民課総合相談室等)

※日常の業務を通じて認知症に対する問題意識が高いと思われる関係機関や事業所に出向き相談した。初回の丁寧な情報交換が効果的。

認知症になっても安心まちづくり連絡会

◎連絡会

認知症の方に関わる関係者で構成 22団体(H28年度)

医師会(認知症サポート医4名)、歯科医師会、薬剤師会、介護施設関係者、ケアマネジャー代表、市民ボランティア、介護者家族、商工会議所、社会福祉協議会、金融機関、タクシー協会、弁護士、消防、警察、タクシー協会、県長寿社会課、市健康増進課 等

◎部会の開催

- 課題の中でも優先度の高いテーマを選んで、具体的な解決をはかっていくための部会を設置している。(部会は毎年まちづくり連絡会で決定する。)

「認知症になっても安心まちづくり連絡会」 各部会の開催

○金銭管理・権利擁護部会(H24)

- 金融機関向け相談窓口資料の作成と配布
- 金融機関待合室への情報配置
- 金融機関向け認知症サポーター養成講座の実施



○金銭管理・権利擁護部 会(H25)

- 認知症の疑いのある高齢者の対応に関する実態調査

「認知症になっても安心まちづくり連絡会」 各部会の開催

○徘徊対応部会（H24）

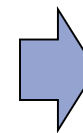
徘徊高齢者登録台帳の作成
登録者に目印となるステッカーの配布
周知のチラシ作成



徘徊SOSネットワークの
構築へ
（H26.2月運用開始）

○徘徊対応部会（H26～27）

- 行方不明者の搜索活動について協議
- 「奥州市はいかいSOSネットワーク図（案）」作成
- 市内の主な機関へ協力依頼



具体的なネットワーク構築
へ（H28年度運用予定）

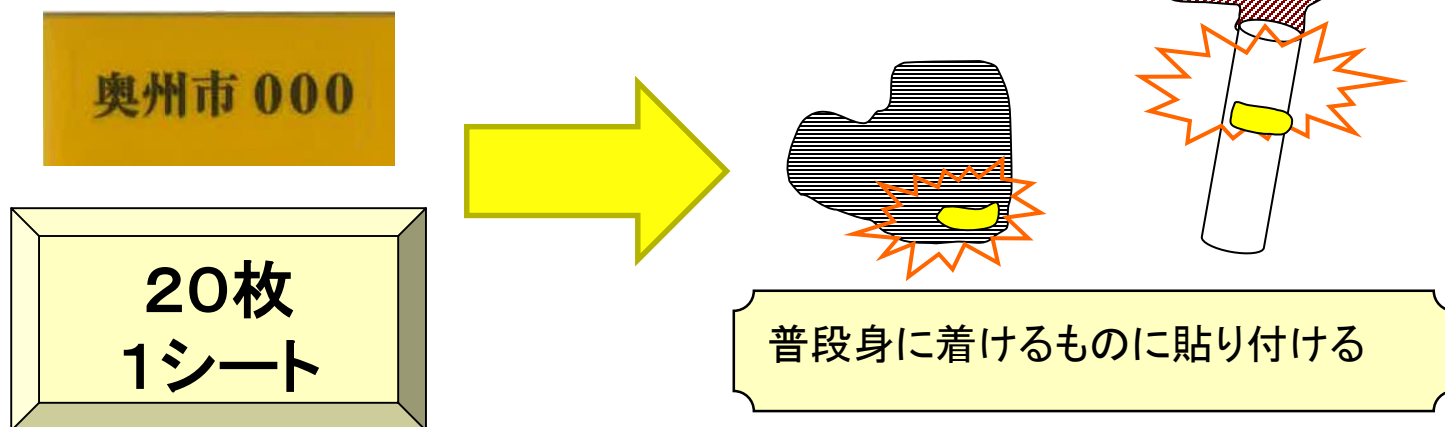


奥州市はいかいSOSネットワーク事業

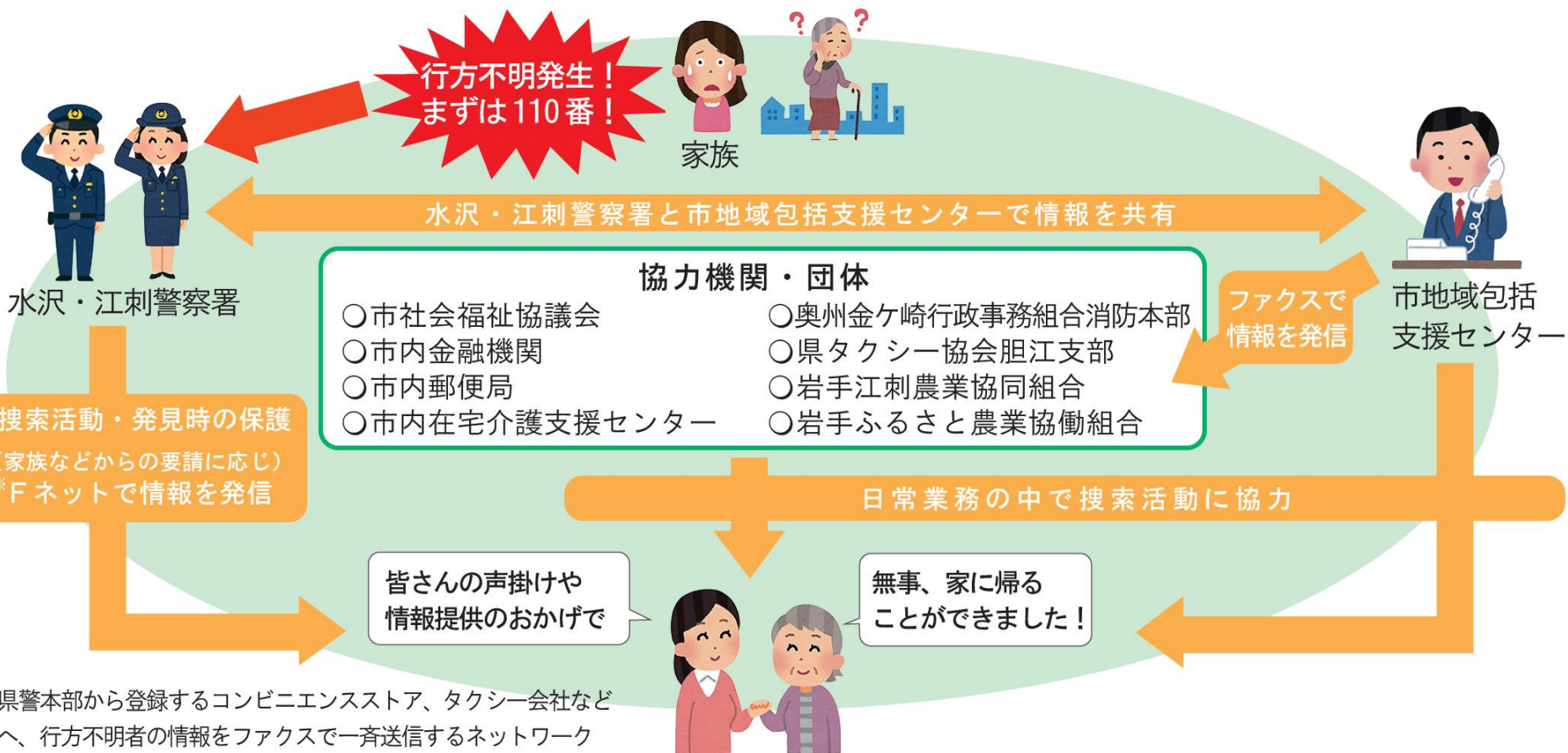
認知症などの症状により、徘徊の恐れのある高齢者の情報を登録する(事前登録制度)

登録すると・・・

- 登録された高齢者の情報は市と警察署で共有
- 登録者には、外出時の目印となる登録番号入りのステッカーを配布



奥州市はいかいSOSネットワーク事業



「認知症になっても安心まちづくり連絡会」 各部会の開催

○普及啓発・相談対応部会(H24)

普及啓発リーフレット作成

○おうしゅう介護の便利帳作成部会 (H25)

- おうしゅう認知症おたすけマップ
- おうしゅう認知症おたすけ便利帳

○認知症ケアパス作成部会(H27)

- 「おうしゅう認知症おたすけ便利帳」に「認知症ケアパス」を加え、「おうしゅう認知症おたすけ便利帳 2版」として作成



おうしゅう認知症おたすけ便利帳 2版



●利用できるサービス一覧表（認知症ケアパス）

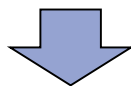
	軽過ぎ	認知症を有するが日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> □物忘れが増えた。 □食料管理や買い物などに少し不安はあるが一人でできる。 □服がなくなったり、靴が履き残ったということが増える。 □車の運転がなくなった。 □約束の時間に出発しない。 □服を覚えて来ない。 □失敗を繰り返す。 □知りたくなさがる傾向がある。 □忘れることが多いが、日常生活は自立している。 	<ul style="list-style-type: none"> □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 	<ul style="list-style-type: none"> □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 	<ul style="list-style-type: none"> □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 	<ul style="list-style-type: none"> □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。 □誰かがいないと不安になる。
家族の心構え	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもと違う、何か様子がおかしいと思ったら、早めに地域包括支援センターや宅介護支援センターに相談しましょう。 ・認知症の病名について知り、相手の様子やつづいて理解しましょう。 ・怒りや焦りなどの感情を抑え、冷静に話を聞いてあげてください。 ・家族間で介護について話し合っておきましょう。 ・介護に失敗しても、自分を責めないようにしましょう。 ・本人が納得できるように配慮しましょう。 				
相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> 認知症対応センター ※お近くのケアセンターに問い合わせてください。 在宅介護支援センター（フロンティア） ※ 3ページ 在宅介護支援事業所（介護支援専門員） ※ 10ページ 				
医療	<ul style="list-style-type: none"> かかりつけ医 認知症についての「認知症治療がすすんでいる市」医療機関 ※ 13ページ 医師を招いて相談するもOK かかりつけ薬剤師 ※ 14ページ かかりつけ歯科 ※ 14ページ 				
安否確認見守り	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者認知症対応センター（緊急通報専用） ※ 15ページ 民生委員・民生福祉スタッフ・民生福祉ネットワーク事業「ここにネット」 ※ 15ページ 生活支援センター（福祉サービス） ※ 18ページ 生活支援センター（福祉サービス） ※ 18ページ 生活支援センター（福祉サービス） ※ 18ページ 生活支援センター（福祉サービス） ※ 18ページ 生活支援センター（福祉サービス） ※ 18ページ 生活支援センター（福祉サービス） ※ 18ページ 				
介護保険サービス	<ul style="list-style-type: none"> 介護認定の申請 介護保険のサービスを受けたい場合は、ケアマネージャーに相談してください。 介護認定の申請 介護保険のサービスを受けたい場合は、ケアマネージャーに相談してください。 介護認定の申請 介護保険のサービスを受けたい場合は、ケアマネージャーに相談してください。 介護認定の申請 介護保険のサービスを受けたい場合は、ケアマネージャーに相談してください。 				
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> 認知症家族支援会、痴呆会、家族介護者会、痴呆ケアフォーラム、認知症家族＜こり物＞事業 ※ 16ページ 同じ体験をしている人たちがいます その他のサービス（介護保険外） ※ 18ページ <家事や外出等の支援が必要とき> 				
介護予防交流の場	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防事業 ※ 18ページ 生きが、認知症アソシエーション ※ 20ページ 認知症（老人）クラブ、認知症いきいきサロン等 ※ 21ページ 				
住まいの支援	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者宅より介護サービスを受けたい場合は、認知症専門員に相談してください。 ※ 21ページ 高齢者向け住宅 ※ 21ページ 				

■ H28年度はダイジェスト版を作成予定

「認知症になっても安心まちづくり連絡会」 及び課題解決に向けた各部会の開催

○医療と介護の連携部会(H26)

- 医療と介護の連携共有シート
(認知症初期集中支援推進事業)の作成
- 介護保険サービス・診断につながるプロセスについて検討



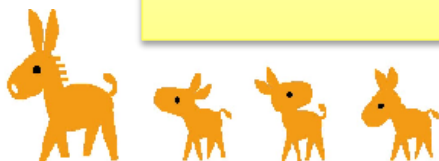
- H28年度は受診連携ツールの作成



キャラバン・メイト活動支援と 認知症サポーター養成事業

- フォローアップ研修会の開催
- キャラバン・メイト自主活動組織育成支援
奥州市キャラバン・メイト連絡会スマイル² を H24.5月設立し、
組織的に自主活動を開始
キャラバン・メイトオレンジ通信発行
- 認知症サポーター養成講座

※キャラバンメイトに事務局をおき自主性を尊重するとともに、報道機関等への情報提供やシナリオ作成・各種連絡調整等後方支援を心がけている。「キャラバンメイトがいます」という表示板の発行等。



認知症支援ぬくもり隊養成講座と 自主活動支援

～養成講座～

- 認知症を学び、認知症になっても安心地域づくりを一緒に考え行動する市民ボランティア養成
- 各分野の講師による講話とアクション・ミーティングを実施

～自主活動支援～

- H26年度に修了生で「奥州市認知症支援ぬくもり隊」を結成
- 地域包括支援センターは事務局としてバックアップ

～平成28年度の活動～

- 「ぬくもり農園」での野菜作り
- 「のんびり青空レストラン」の実施(2か所)
- 奥州市の認知症事業への協力



認知症介護者家族交流「ぬくっこ」

歌ってリフレッシュ!
学んでリフレッシュ!
話してリフレッシュ!
動いてリフレッシュ!

～参加者の声～

- 自分たち「も」でなく、自分たち「が」元気でいないと
- 介護の辛さは「孤独」、近所の人のがけが有難かった
- プライドを保持しながら子どものように世話をしなければならない矛盾に疲れる
- 色々悩んでいましたが、体験された皆様のアドバイスを聞いて本当に楽になりました。



- 家族の声をとらえて、市民・関係者に発信
- 家族の集まりの際に、地域課題の芽を集める

思い出カフェ「昔なつかし語らいの会」

～きっかけ～

- 「認知症の人と家族の実態調査」で、「自宅とデイサービス以外の居場所」を望む本人の声
 - めくもり隊養成講座でのアクション・プラン
- ➡ 平成25年8月開始
包括が月1回市内中心部で開催



～出てきた課題～

- 市内1カ所だけではなく多くの場所での開催が求められる。
 - 地域への認知症カフェの周知がまだまだ不足である。
- ➡ 平成28年4月より、在宅介護支援センター11か所に委託し、市内12か所での開催に拡大

活動の成果

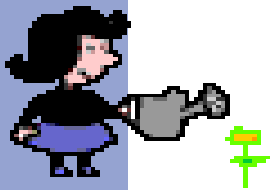
- 関係機関と連携し、課題に取り組む体制ができた
 - 連絡会や部会活動により、医師会をはじめ民間も含めた関係機関の協力が得られやすくなった。
- 地域の認知症に対する関心が高まっている
 - 報道機関の取材が増えた。
 - 関係機関で認知症をテーマにした講演会が多くなった。
 - はいかいSOSネットワークの登録者が増えている。
 - 関係機関から地域包括支援センターに相談が来るようになった。

課題

- 早期の受診や診療に結びつかない人がいる。初期の認知症の方をどのように把握し、対応していくか。
- 認知症予防の取り組みの促進。住民のニーズは高いため、効果的な取り組みができる仕組みづくり。
- 住民の中で認知症に関する理解の差がある。幅広い普及啓発の推進が必要。

今後にむけて

- 認知症ケアパスの普及を図る
- 医療と介護の連携をすすめる
- 初期の対応強化のため、認知症初期集中支援推進事業の効果的な実施体制の検討
- 認知症予防事業の効果的な取り組みができる仕組みづくり
- 事業の評価をしながら、効果的な実施方法を検討していく



地域住民との取り組みから学んだこと

住民の認知症への関心は高い！

自分たちの住む地域を自分たちでよくしていこうという意欲を持っている！

その土地で暮らす覚悟がある！

地域に出て、人と会う！

住民と専門職がつながる『協働のまちづくり』

思いを持った人同士を繋いでいく…

出会った人のつぶやきや本音が企画の源

課題を共有できれば、住民は必ず一緒に動いてくれる！

「最初からうまくいくはずはない」が申し合わせ事項。きっと助けてくれる人がいる。

ご清聴ありがとうございました



国立天文台水沢VERA観測所の電波望遠鏡